

陳平原著「神田書肆街（2）」

中里見，敬
九州大学

<https://hdl.handle.net/2324/1935642>

出版情報：中国語．500，pp.54-56，2001-09．内山書店
バージョン：
権利関係：



神田書肆街 (2)

中里見 敬

散文とはどういうものでしょうか。本来は韻文と対になることばでしょうが、《中国近代文学大系》(趙家璧主編, 上海: 良友圖書公司, 1935) 以来, 小説・詩歌・戯劇とならんで, 近代文学のジャンルの一つとして確立しています。

古典文学では, 文は詩と並んで士大夫の重要な表現手段でした。文章は議論, 墓誌銘, 尺牘, 序などいろいろな用途のために書かれますが, 緊密な構成と粋を凝らした表現は, 文学作品としての鑑賞にたえるものでした。現代の散文は, 文体こそ文言から白話に変わりましたが, こうした古典散文の伝統を色濃く受け継いでいるように思います。

日本語のエッセイの軽妙さとはかなり味わいのちがう, むしろ美文的, ときには学問的要素を備えたものが中国の散文の特徴だといえるでしょう。

③ 当然, 跑得最多的还是神田书肆街, 那里毕竟是全日本古书的集散地。拿着一张“神田古书店地图帖”, 挨个访问地图上标出的一百三十家古书店, 没有两、三天时间几乎走不完。好在这里离本乡不远, 上东大时不妨绕点路, 顺便光顾一下。刚刚把门路摸熟, 便碰上第三十四回“古书节”。每天都去转一圈, 既看书, 也看买书人。

Dāngrán, pǎode zuì duō de háishi Shéntián shūsì jiē, nàlì bìng shì quán Rìběn gǔshū de jísàndì. Názhe yì zhāng “Shéntián gǔshūdiàn dìtútiē”, āigè fǎngwèn dìtú shàng biāochū de yìbǎisānshí jiā gǔshūdiàn, méi yǒu liǎng, sān tiān shíjiān jīhū zǒubuwán. Hǎozài zhèlǐ lí Běnnxiāng bù yuǎn, shàng Dōngdà shí bùfáng rào diǎn lù, shùnbìan

guānggù yíxià. Gānggāng bǎ ménlù mōshóu, biàn pèngshang dì sānshísì huí “gǔshū jié.” Měitiān dōu qù zhuàn yì quān, jì kàn shū, yě kàn mǎi shū rén.

〈注〉

毕竟: やはり。さすがに。

挨个: 順々に。一軒一軒。この“个”は轻声ではなく, “gè” と“儿化”して第四声で読む。

走不完: 回りきれない。動詞“走”+可能補語“不完”のかたち。

好在: = “幸亏”“幸好”。幸いに。都合のよいことに。

不妨: …してかまわない, …してよい。文末までかかる。

绕点路: 離合詞“绕/路”(回り道する)に“(一)点”をはさんだかたち。

摸熟: (知らない道を) 手探りで尋ね歩いた(“摸”)結果, 道を覚えた(“熟”)。動詞“摸”+結果補語“熟”。“摸”=“摸索”。

碰上: ちょうど…にぶつかる。“上”は到達・成就を表す補語。

转一圈: ひとまわりする。“zhuàn yì quānr”と“儿化”する。



既看书, 也看买书人: “既……, 也(又、且)……”の呼応表現。…し, …もする。

〈訳〉

もちろん一番多く足を運んだのはやはり神田の書店街だ。さすがに日本中の古書の集散地だけのことはある。「神田古書店地図帖」を手に, 地図に書かれた百三十軒の古本屋を一軒一軒回るには, 二, 三日なければ回りきれない。都合のよいことに, そこは本郷から遠くないので, 東大に行くときにちょっと回り道して, ついでにひやかすことができる。ようやく道順に慣れたばかりの頃, 第34回古本市に出くわした。毎日出かけてひとまわりしては, 本を見, また本を買う人の様子を見た。

④ 看来日本人也喜欢买便宜书, 每个书店前面的特价书摊都是人头攒动。唯一不同于北京秋季书市的, 是没有鼎沸的人声。大家都默默地埋头挑书, 书店安静得像图书馆。没有发现奇书的惊叹, 也没有错失明珠的怨艾, 更没有巧遇故人的欢呼, 一切都显得井井有条。如此“平淡”得近乎“无味”, 反而让我怀念那有点杂乱但充满生气的北京书市。

Kànlai Rìběnrén yě xǐhuan mǎi piányi shū, měige shū-diàn qiánmiàn de tèjià shūtān dōu shì réntóu cuándòng. Wéiyī bùtóng yú Běijīng qiūjì shūshì de, shì méi yǒu dǐngfèi de rénshēng. Dàjiā dōu mòmò de máitóu tiāo shū, shūdiàn ānjìngde xiàng túshūguǎn. Méi yǒu fāxiàn qíshū de jīngtàn, yě méi yǒu cuòshī míngzhū de yuànyì, gèng méi yǒu qiǎoyù gùrén de huānhū, yíqiè dōu xiǎnde jǐngjǐng yǒu tiáo. Rúcí “píngdàn” de jìnghū “wúwèi”, fǎn’ér ràng wǒ huáiniàn nà yǒudiǎn zálùn dàn chōngmǎn shēngqì de Běijīng shūshì.

〈注〉

看来：見たところ。

书摊：本を並べる露天の平台。“shūtānr”と“儿化”して発音する。参考：“摆摊儿 bǎi tānr”。屋台を出す。“收摊儿”：屋台をしまう。転じて、やりかけの仕事をかたづける。

人头攒动：人波が揺れ動く。ごった返す。

不同于：（書面語）…と違う。口語では，“和（跟）……不一样”。

鼎沸：（書面語）沸き立つ。沸き返る。例：“人声鼎沸。”

埋头：没頭する。専念する。

挑：選ぶ。類義語：“选”“挑选”。

安静得像图书馆：静かさが程度がまるで図書館のようだ。様態補語のかたち。

怨艾：（書面語）＝“怨恨”。怨み。

显得：…に見える。…である。

井井有条：整然と秩序だっている。きちんとしている。

“平淡”得近乎“无味”：“平淡”さの状態

が“无味”（つまらない）に近い。形容詞“平淡”＋“得”＋様態補語“近乎无味”のかたち。

反而：かえって。

〈訳〉

見たところ、日本人も安い本を買うのが好きようだ。どの店頭でも特價本の台には、人だかりができています。北京の秋の古本市と唯一違うのは、沸き返るような人の声がないことだ。皆、黙々と本探しに没頭していて、まるで図書館のように静かである。奇書を見つけた驚きの声も、稀覯本（きこうほん）を取り逃がした怨み声もなく、まして旧友に出くわした喜びの声もない。すべてが整然と秩序だっているのだ。こんなに淡々としていては、ほとんど味もそっけもない。私はかえってゴミゴミしてはいるが活気に満ちた北京の古本市が懐かしくなった。

（なかざとみ・さとし 九州大学）

（イラスト：富田淳子）